

生成 AI を用いた Web 広報支援方法の検討

——入試関連 FAQ 作成と内容検証の試み——

齋藤 朗宏 (北九州市立大学)

大学入試において、Web を使った広報は大変重要であり、特に入試に関する情報収集には欠かせないツールとなっている。そこで、本研究では大学入試に関する重要な情報源となっている入学者選抜要項を用い、そのファイルから重要事項を抽出して FAQ のデータベース化した上で、その内容に関する検証を行うことで、生成 AI による Web 広報支援の可能性を検証した。結果、無料の生成 AI であったとしても、一定程度正確な FAQ を作成することができることが確認できた。一方で特に表に関する処理に失敗するケースが散見され、複数学部の入試情報が掲載されているケースにおいて、関係ない学部の入試情報を提示してしまうケースがあるなど、人の目での最終的なチェックも欠かせないことが確認された。

キーワード：入学者選抜要項, 生成 AI, Chat GPT, Gemini, Microsoft Copilot

1 はじめに

1.1 大学における AI

日本語を利用することのできる生成 AI 「Chat GPT¹⁾」がリリースされた 2022 年以降、日本においても生成 AI が本格的に普及を始めた。野村総研(2023 年 5 月 26 日)では、Chat GPT リリース直後の情報として、日本からのトラフィックシェアが米国、インドに次いで世界で 3 番目に多いことを報告している。それに加えて、独自調査の結果として、職業別では学生、教職員といった教育関係者の利用率が高いという結果を得ている。齋藤(2024)においても、東北学院大学の学生を対象として生成 AI の利用に関する調査を行っており、人文、社会科学系の学部においては、正確性の観点などからの懸念を示す学生が多くおり、利用率も低くなっているものの、工学部、情報学部といった学部においては利用率も相当に高くなっていることなどを確認している。

一方で、太田(2023 年 4 月 28 日)では、生成 AI の普及開始を踏まえ、教員側に授業における AI ツールの利用に関して各種注意事項を説明している。特に、AI で作成された回答を丸ごとコピー・ペーストして提出する学生に関する対応について、様々な観点から述べている。そこでは、短い課題を授業中に課す、情報ソースを表示させるなどの対応策が示されている。

このように、大学教育の現場では、生成 AI の利用、また不適切な利用への対応策などが積極的に議論されていることが確認できる。

1.2 AI と広報

大学における、生成 AI を含む AI の利用は、何も教育に限られたものではない。広報現場においても相当な利用を見込むことができる。AI を利用した広報と

して想定されるのは、主に以下の 3 場面と考えられる。

1. コンテンツの作成
2. 情報の整理
3. 情報の提示

コンテンツの作成については、大学現場における事例ではないが、たとえば PARCO(n.d.)の「HAPPY HOLIDAYS キャンペーン」が挙げられる。このキャンペーンについて、「CM では、宇川直宏氏をクリエイティブディレクターに迎え、生成 AI 技術によって写真に生命を吹き込まれた細野氏の 55 年の歴史が、田名網敬一氏の個性豊かなモチーフたちと共に動き出し、細野晴臣氏による書き下ろし楽曲とナレーションで特別なホリデーシーズンを演出いたします。」と述べており、動画作成に生成 AI を利用していることが説明されている。

情報の整理と提示としては、広報に関連したチャットボットの利用などが考えられる。たとえば桜美林大学(2020 年 08 月 24 日)では、同日より学生向けに学生生活と国際交流・留学情報の提供、高校生向けに入試情報の提供を行うチャットボットを導入するとリリースしている。その目的として、チャットボット導入による対応業務の効率化を挙げ、加えて、高校生側への広報上のメリットとして、大学への質問のハードルが低い、時間・場所を選ばず、スマートフォンでも気軽に質問が出来るといった点を説明していた。

ただ、このチャットボットについては、桜美林大学(n.d.)で、2024 年度をもってサービスを終了すると決定したと述べられている。その理由として、運用に大きな負担がかかる一方で、十分に有効なサービスが提供できていないと説明している。

1.3 AI を広報に利用する際の問題点

先述の桜美林大学の事例においては、運用にかかる大きな負担というのが何であったのか具体的には述べられていない。しかし、この「負担」が持つ一つの側面を説明しうる事例が存在する。エアカナダが設置していたAI チャットボットが誤った情報を与えたことをきっかけとした裁判である。BBC (2024年2月23日)によると、エアカナダ社の提供していたAI チャットボットが、忌引割引 (Bereavement Fare) に関する誤った情報をユーザーに提供した結果、ユーザーが本来受けるべき正当な割引を受けられなかったという事態が発生した。そして、その責任を誰が負うべきかが裁判となり、結果的にエアカナダ社に差額等の支払いが命じられたということである。この裁判で命じられた賠償金は£642.64であり、その時期のポンド・円レートで考えると12万円程度であった。

こういったAI が不正確な情報を提示してしまう誤りは、ハルシネーション (幻覚) と呼ばれ、上記 BBC の記事においても、この観点から裁判の意味を説明している。

では、大学広報において同様の問題、即ちハルシネーション発生した場合にはどうだろうか。上記の事例では、事実上の損失は金銭的な不利益のみであり、それに対する賠償であるため、エアカナダ社が支払うことになった金額も、大企業の負担額という観点からすれば大きなものではなかった。しかし、入試広報において問題が発生した場合、そこで発生する損失は必ずしも金銭で計算できるものではない。そのため、そのチャットボットにAI を使っていたか否かは別としても、運用に関連して、このエアカナダ以上に情報の整理とメンテナンスに多大な労力が割かれることになっていただろうことは想像に難くない。

1.4 本研究の目的

これまで述べてきたAI、特に生成AIの普及とそこで発生しうる問題点を踏まえ、大学広報のためのツールとして、2025年7月現在の生成AIは信用に値し、利用に耐えられるのかを検討することを主たる目的とする。加えて、信用するのが難しいということであれば、どの程度人の手による作業をサポートしてくれるのか、AIの示す情報に対して、どの程度人の手を加える必要があるのかについて検討を行う。

具体的には、大学の入学者選抜に関する要項、即ちその年の最新、最も正確な入試に関する情報から生成AIを利用してFAQを作成できるのかの検討を行い、主要な生成AI間での比較検討を行う。大学入試に関

する情報は、先述の通り正確さが極めて重要となる。この観点から、情報の正確性については特に厳密な評価を行う。それに加えて、質問に対する適切な回答になっているかという、回答の適切性や回答における情報の過不足についての検討も行う。これらは、FAQの実用性という観点では重要な指標ではあるが、一方で情報に誤りさえなければ、受験生を検討している生徒が情報収集を断念するといった機会損失等が発生する可能性は否定出来ないにせよ、重大なインシデントに繋がる可能性は低いと考えられる。そのため、どの程度適切であるかという観点からやや柔軟に評価を行うこととする。これらを通して、チャットボット等の設置のための情報メンテナンスへの貢献が期待できる。

2 方法

2.1 使用するデータ

九州地方に存在する国公立大学の中から、経済学部を設置し、かつ単一のPDFファイルで2026年度入試に関する入学者選抜の要項をWeb上で公開している3大学 (国立A大学、国立B大学、公立C大学) を抽出し、その公開されているPDFファイルをFAQ作成の元となるファイルとした。

2.2 生成AIと使用するプロンプト

FAQを作成するにあたっては、先述の通り生成AIを用いてPDFより、Q and Aの形で重要な情報を抽出した。検索結果の検証を目的として、大学全体における情報に加え、経済学部に限った情報に関する抽出も行った。抽出にあたっては、以下の条件から生成AIに対する指示のプロンプトを作成することとした。

1. 与えたファイルを元にして、質問文を作成することであること。
2. 文法的に正しく自然であり、FAQにふさわしい丁寧な文章を出力すること。
3. 後に他のソフトウェアに読み込ませて分析、検索などに利用することを考え、表形式にて出力すること。
4. 同様の理由で、キーワードや掲載ページを出力すること。

これらの条件を概ね満たすものとして、@oichan00氏 (2024年6月15日) 作成のプロンプト²⁾があったため、それをベースに、プロンプトを作成した。ただ、当該プロンプトには掲載ページを出力する指示がなかったため加筆し、逆に元プロンプトにあった関連するURLの提示については、あくまでもファイル内の必要事項のみ記載するという観点から削除した。加

えて、今回の用途を踏まえ、大学全体に関する情報の提示と経済学部限定した情報の提示という指示も加筆した。そのプロンプトは以下の通りである。

目的：
入力文となる文章・表からFAQを作成する

要件：

1. チャットのファイルを読んでFAQを作成する。
 - 音声文字認識のテキストを読みやすい文章へ変換してください。
 - JTF 日本語標準スタイルガイドに従い、文法的に正しい自然な文章に修正し、句読点を適切に追加してください。
 - 曖昧な表現や省略部分を補完してください。
2. 一方的なアナウンスなども強制的に質問と回答の形式にする。
3. わかりにくい部分は前後の文脈から推測して補完する。
4. 新社会人でもわかるような平易な言葉遣いを心がける。
5. 特定の学部に関する情報ではない大学全体に関する記事を 25 件以上作成し、経済学部に関する記事も 25 件以上作成してください。
6. 1 行で行われるアナウンス文も見逃さないようにする。
7. 出力結果はヘルプデスク、コールセンター業務で使用しますので適した形にしてください
8. です。まず調でFAQを作成してください
9. 検索用のキーワードを# 始まる語句で最低 5 つ作成してください。
10. 表の内容は省略せずに文章化してください。

処理手順：

1. [入力文] を読み内容を理解する。
2. ナレッジ記事を作成する。
3. 検索で引っかけやすいように「#キーワード」の形式でキーワードを 5 つ程度作成する。
4. 回答が掲載されているページ番号を掲載する。

あなたの出力結果に対する過去の指摘事項：

1. 要約しないでください。詳細に書いてください。
2. 記事は 1 件だけ作成せず、たくさん書いてください。
3. 入力文にない内容のテーマで記事は作らない

てください。

4. キーワードの列は、関連する検索語句を# から始まる言葉で 5 つ作成してください

出力形式：表形式

| # | テーマ | 質問内容 | 回答内容 | ページ番号 | キーワード |

#	テーマ	質問内容	回答内容	ページ番号	キーワード
1					
2					
3					

入力文：

(次のチャットでお伝えします。出力せずに待機してください)

このプロンプトを生成 AI に与えて結果を確認した。現状では、有償無償を問わず、非常に多種多様な生成 AI を提供するサービスが存在する。また、同じサービスの中でも、無償と有償で異なる AI を提供するケースや、複数の有償プランがあり、それぞれで異なる AI を提供するようなケースもある。こういった状況では、何らかの基準を定めなければ各サービスを比較検討するのは大変難しい。そこで本研究では、研究の条件を揃えるために、無償で用いることができ、汎用的、かつ著名な生成 AI という条件から Chat GPT (GPT4o), Gemini³⁾ (2.5 Pro), Microsoft Copilot⁴⁾ (2025 年 7 月アップデート) を利用することとした。それぞれに FAQ 作成元となるファイルとプロンプトを与え、結果を確認した。

結果の確認は、著者自身が目視等を用いて、以下の手順で行った。

1. 指示通りの表に出力されているかの確認。
2. 個々の項目に対して、ファイルのページ番号を確認、該当ページにその質問、回答に関する情報が記載されているかを確認。
3. 記載されているのであれば、そのページの情報から正確な情報を提示できているか、適切な問いとそれに対応する回答になっているか確認。
4. 記載されていない場合には、回答に出てくる単語を利用してファイル内を検索して該当箇所を見つけ、同様に正確性等を確認。

3 結果と考察

3.1 AI ツール間の比較

3.1.1 Microsoft Copilot

Copilot については、指示通りの生成がほとんど不可能であった。最初の 5 件程度は指示通りに出力するが、その後については表形式ではなく文章の形式での出力となってしまう、また無理に全体を表形式にすると、生成エラーが発生する、ファイルが途中で切れるといったトラブルが発生するなど、現実的な使用は難しい状況であった。そのため、現時点では精度の評価などは難しいが、他のツールと比較すると、あまり細かい情報の提示は行わず、簡単な要約で、あとは該当ページを見るようにという指示が多い印象であった。

3.1.2 Chat GPT

Chat GPT では、A, B, C3 大学いずれも大学全体で 25 件、経済学部で 30 件の FAQ を所定の書式で作成することができた。

一方で、ファイル中の対応するページについての出力が全く不正確なものとなった。そのため、どこを根拠とした質問と回答になっているのかの確認が困難な部分が多く見られた。

個別の大学で見ると、A 大学においてはファイル中で全く触れられていない情報を提示してしまっているケースがあり、それらの中に不正確な情報が多く入っていたため、結果的に半数以上の情報が誤っているという結果になった。一例を挙げると、A 大学経済学部では元々 X, Y, Z3 学科制であったのが、20 年程前に X 学科と Y 学科の統合が行われ、X・Y 学科と Z 学科の 2 学科制になっている。しかし作成された FAQ では、X, Y, Z 3 学科制である旨説明されている。

B 大学、C 大学においてはそこまで致命的な問題は見られなかったが、情報の部分的な提示しかできていないものが多かった、その上ページの参照ができていない結果、詳細は該当ページを参照するようにといった指示を出すこともできておらず、情報として必ずしも間違っているとは言えないが、返答として適切とも言いがたいものが多かった。一例を挙げると、「一般選抜では共通テストの成績をどのように利用しますか。」という質問への回答が、「大学入学共通テストの本学用配点に基づき、必要に応じて換算して利用します。」となっているなどである。このように、FAQ として実用レベルのものを作成することはできなかった。

また、これは後述するとおり Gemini でも発生している問題だが、全体的に表、特にセルを結合して作ら

れているような表における読み取りの誤りが多く、経済学部の入試に対する質問に表を見て回答する際に、その表で経済学部周辺に記載されている学部の情報のものになってしまっているケースが多く見られた。

3.1.3 Gemini

Gemini では、概ね指示通りの出力を得ることができた。加えて、プロンプト中の指示にあった「10. 表の内容は省略せずに文章化してください。」の部分が他のツールと比較してかなり遵守されており、その結果、返答が長くなる部分も見られたが、入試に関する質問への回答としては、かなり適切な結果を得ることができていて、FAQ の元にするものとして、実用性を検討するに値する結果であった。

一例を挙げると、A 大学における「総合型選抜に「I」と「II」がありますが、何が違いますか?」という問いに対して、「大きな違いは、大学入学共通テストを課すかどうかです。・総合型選抜 I (D 学部、E 学部で実施)：大学入学共通テストを課しません。・総合型選抜 II (F 学部、G 学部、H 学部、I 学部などで実施)：大学入学共通テストを課します。」と回答している。しかし、情報元となっているページを確認すると、総合型選抜の I と II の違いは大学入試共通テストの有無であるとはどこにも述べられていない。ただ、各学部における総合型選抜 I, II の説明について一通り確認すると、総合型選抜 I を実施する学部の説明にはすべて「大学入学共通テストを免除」という説明があり、同じく II を実施する学部の説明には、共通して「(前略)及び令和 8 年度大学入学共通テストの成績の総合評価により選抜を行います。」という記述が存在する。

つまり Gemini は、各学部の文面を比較して総合型選抜 I と II の重要な違いがこの点にあることを発見し、それを説明していることになる。また、そもそもこの違いを発見するためには、総合型選抜 I と II の違いを見つけることを目標に設定し、各入試の文面を総合型選抜 I と II に分けて比較している必要がある。その必要性を発見できていること自体も問題発見能力が大変優れていることの証拠と言えるだろう。

3.2 Gemini を利用した FAQ の検討

これらの点を踏まえ、ここからは、Gemini で作成した FAQ に関して結果を詳細に検討する。FAQ の各項目について著者自身で確認、評価した結果は表の通りである。尚、全体件数は学部を問わない FAQ の件数で経済件数は経済学部に限った FAQ の件数である。

表 1 Gemini を用いた FAQ の結果と評価

	A 大学	B 大学	C 大学
全体件数	27	26	28
経済件数	27	26	27
合計件数	54	52	55
正確性○	48	43	51
×	6	9	4
適切性○	52	49	52
△	2	3	3
×	0	0	0
ページ○	11	12	52
△	43	40	2
×	0	0	1

正確性は情報として誤りがないかを示す。適切性は、適切な問いになっており、またそれに対する回答になっているか、回答に過不足はないか、全体部分について、特定の学部に関する FAQ になっていないかなど全体的な適切性を示す。ページは、PDF のページと情報のある場所が対応しているかを示す。それぞれ ○…全く問題なし、△…部分的に問題あり、×…問題ありを示している。尚、正確性については、入試広報として見た場合、一箇所でも誤りがあればその項目を使うことはできないため、回答中のどこかに明確な誤りがある場合にはすべて×としている。

「正確性」については、○の割合がA 大学は 89%、B 大学は 83%、C 大学は 93% であり、概ね 90% 弱と考えることができる、かなり正確な結果とも言えるが、一方で 1 割以上の項目に誤りのある情報が含まれている FAQ ではそのまま使うのは不可能であり、やはり、あくまでも FAQ を作成するための参考資料と位置づけるべきであろう。この観点から、情報の誤りが含まれていた 19 項目をすべて確認すると、すべての項目が表からの情報の読み取りを行っているものであった。

一例を挙げると、B 大学の FAQ において、「経済学部の前期日程では、大学独自の試験（個別テスト）はありますか？」という質問に対して、「はい、「総合問題」が課されます。これは、文章（英文を含む）や資料（図表、写真、絵、地図など）を題材に、読解力、論理的思考力、分析力、考察力を問う試験です。」と回答している。しかし、実際には B 大学経済学部の前期日程で課しているのは「外国語」であり、総合問題は、表上で経済学部の 1 つ上の行にあった学部学科で課しているものであった。

他にも、C 大学では「経済学部の学校推薦型選抜で評価される資格について、2027 年度入試での変更予定はありますか？」という質問に、各種資格の評点表

を元にして、「（前略）例えば、2026 年度入試で評点 3 だった「実用英語技能検定準 2 級」は、2027 年度入試では評点 2 になります。」と回答している。しかし、実際には実用英語技能検定準 2 級の評定は 3 点のままである。

これは Chat GPT を使用していた際にも発生した問題であり、現時点では、生成 AI を使用した FAQ 作成時に最も注意しなければならない点と言えるだろう。

「適切性」については、どの部分も概ね高く、△とした 8 項目についても、うち 6 項目はプロンプト中で「特定の学部に関する情報ではない大学全体に関する記事」と指示しているにもかかわらず、特定の学部に限った内容の問いと回答になっているケースであり、残り 2 項目については、1 項目は「B 大学ではどのような学生を求めていますか？」という問いに対して、「（前略）教育目標として、（中略）国際化時代にふさわしい異文化理解とコミュニケーション能力の修得を掲げています。」のように、アドミッション・ポリシーに記載されていた教育目標まで一緒に載せてしまったものであった。

また、C 大学における「経済学部の一般選抜（前期日程）では、どのような試験が課されますか？」という問いに対して、「（前略）国語：200 点 地歴・公民、数学、理科、情報から指定方法により選択：合計 300 点（後略）」と答えているもので、実際には地歴・公民、理科から 1（100 点）、数学、情報から 2（200 点）である。挙げられている科目群の中から選択すること、その科目群に関する配点の合計が 300 点であることはいずれも情報として誤りではないが、実際に 200 点満点である国語など他の科目は要約せず、この科目群のみ合計 300 点という形で要約してしまっていることは適切とは言いがたい。

このように見ると、全 161 項目中で明らかにわかりづらく修正した方が良さそうなのは、C 大学経済学部の配点部分だけであり、適切性という観点からは、かなり高く評価できそうな結果であった。

「ページ」部分を確認するとわかるように、情報元ページが正しく示されているかという点は、大学ごとに大きく異なる結果となった。C 大学はほぼ無関係なページを 1 つ示してしまっていること（×）、逆に参照漏れのページがある項目が 2 つあったこと（△）はあったが、それ以外については、非常に正確にページ情報が示されていた。一方で、A 大学、B 大学については、A 大学はファイル上で 8 ページ目までは、PDF ファイルのページ番号が示されていた（○）が、そこから先は、ページ下部にあるページ番号が示され

ている (△) というように、情報元となるページの番号が一貫していないという問題が発生していた。B 大学についても同様に、ファイル前半では PDF ファイルにおけるページ番号が表示され、後半ではページ下部にあるページ番号が示されるという結果であった。このあたりは、プロンプトの指示の仕方でも改善できる可能性があるが、いずれにしても注意が必要であろう。

最後に、掲載されている情報が過不足なく FAQ にされているかも確認した。この点については、定量的な検討は大変難しいが、参照ページを元に整理すると、どの大学においても、各学部特有の内容が掲載されている部分を除けば、各ページからほぼ満遍なく項目が作成されていることを確認できた。ここから、大学全体で 25 項目程度、個別の学部で 25 項目程度の FAQ を作成すれば、かなりの情報は網羅できていると言えそうである。

4 まとめと今後の課題

入学者選抜に関する要項の PDF ファイルは、掲載されている情報は極めて正確なものだが、検索性にもやや難があり、受験生にとって必ずしも使いやすいものとは言えない。そこで、2025 年 7 月現在の生成 AI を用いて強制的に FAQ の形式にすることで、検索性も高くわかりやすい文章にまとめることができた。

各サービスにおける無償バージョンの現状としては、Microsoft Copilot については表で出力するという部分がやや不十分な様子であった。Chat GPT については、ファイルの要約を指示したにもかかわらずファイル以外の情報を使ってしまうケースや質問に対する回答になっているとは言いがたい部分が散見された。Gemini はかなり期待したものに近い結果が得られた。通常の文面については、概ね正確かつ適切に得られており、情報の過不足も少なかった。加えて、A 大学における総合型選抜 I と II の違いのように、文章として明確に説明されていないことであっても、情報の比較検討から自力で発見して説明することも確認された。この点も補助ツールとして生成 AI を用いるメリットの一つと考えられる。

一方で、3 サービス共に表の読み取りにはかなりの不安があり、たとえば募集定員について、他学部の結果を経済学部の結果として提示してしまうといったような初歩的な間違いも散見された。

期待した出力に近いものが得られた Gemini に関して検討した結果、この表の読み取りの問題もあって、「正確性」で見ると 90% 程度という状況であった。また、情報の「適切性」については、特定の学部に関する

出力をするなどという指示をしたにもかかわらず特定の学部に関する FAQ を作成するといった問題が主であり、加えてあまり意味のない情報要約をしてしまったケースが 1 例ではあったが発見された。「ページ」については、部分的に正しく部分的に誤り、ファイルによって正しく作成出来るケースと出来ないケースがあるという結果であった。

まとめると、そもそも入試情報における「正確性」の重要性から、情報は 100% 正確に取り出せていない限り完全に信用するわけにはいかず、また、「ページ」についても実用レベルとは言いがたい。一方で、「適切性」については、正確性を判定している過程で適切と言いがたい部分は容易に取り除けるレベルであり、利用する価値を感じるものであった。

現実的な利用法としては、質問の部分を本研究のような方法で作成した上で、これも本研究で行ったようにそれに対する回答が正しいかを一旦確認するという過程は不可欠であろう。

今後の課題としては、以下のような点が挙げられる。今回は、FAQ の各項目について、実際に元となった要項の文面と比較して正確さなどを確認したため、3 大学という限られた数しか検討することができなかったが、その 3 大学の中でも誤りや適切ではない出力について、複数のパターンが見られた。この点を考慮し、どのような誤りが起こりうるかを確認するためにももう少し多くの大学における結果の検討を行いたい。また、生成 AI は進歩が著しく、最近でも Google の NotebookLM⁵⁾ のような AI エージェントが注目されており、それらは今回のような広報支援には有効である可能性が高い。こういったツールの利用可能性についても考えていきたい。加えて、今回は質問とそれに対する回答に着目していたが、最終的にチャットボットなどへの応用を考えると、ユーザーからの質問に対して、適切な FAQ の項目を発見する部分も必要となってくる。そういった、自然言語処理を利用した類似文書の抽出についても検討していきたいと考えている。

注

- 1) <https://openai.com/ja-JP/chatgpt/overview/>
- 2) <https://qiita.com/oichan00/items/281c9f918e90d25d02bf>
- 3) <https://gemini.google.com/app>
- 4) <https://copilot.microsoft.com/>
- 5) <https://notebooklm.google.com/>

参考文献

- BBC (2024 年 2 月 23 日). "Airline held liable for its chatbot giving passenger bad advice - what this means for travellers" BBC
<https://www.bbc.com/travel/article/20240222-air-canada-chatbot-misinformation-what-travellers-should-know> (2025 年 7 月 31 日).
- 野村総合研究所 (2023 年 5 月 26 日). 「日本の ChatGPT 利用動向 (2023 年 4 月時点) ～利用者の多くが肯定的な評価～」野村総合研究所 (NRI)
https://www.nri.com/jp/knowledge/report/20230526_1.html (2025 年 7 月 31 日).
- 桜美林大学 (2020 年 08 月 24 日). 「チャットボットの導入により 高校生・大学生の利便性向上と職員の業務効率化を一桜美林学園ワークスタイル改革 2.0～」桜美林学園
https://www.obirin.jp/topics/year_2020/mb9v5b000001ujo.html (2025 年 5 月 30 日).
- 桜美林大学 (n.d.). 「2024 年度事業報告書」桜美林学園
<https://www.obirin.jp/disclosure/mb9v5b00000000yu-att/a1749106441993.pdf> (2025 年 7 月 31 日).
- 太田邦史 (2023 年 4 月 28 日). 「AI ツールの授業における利用について (ver. 1.0)」utelecon 情報システムの総合案内サイト@東京大学
<https://utelecon.adm.u-tokyo.ac.jp/docs/ai-tools-in-classes/> (2025 年 7 月 31 日).
- PARCO (n.d.). 「HAPPY HOLIDAYS キャンペーン」PARCO
<https://parco.jp/happy-holidays/> (2025 年 5 月 30 日).
- 齋藤渉 (2024). 「本学生の生成 AI 利用とその利用目的に関する一考察——学生意識調査の結果から」『第 13 回大学情報・機関調査研究集会 論文集』119-125.
https://doi.org/10.50956/mjir.13.0_119_1